

正氣歌

廣瀬武夫

死生有命不足論
鞠躬唯應酬至尊
奮躍赴難不辭死
慷慨就義日本魂
一世義烈赤穂里
三代忠勇楠氏門
憂憤投身薩摩海
從容就刑小塚原
或爲芳野廟前壁
遺烈千年見鏃痕
或爲菅家筑紫月
詞存忠愛不知冤
可見正氣滿乾坤
一氣存磅礴萬古
嗚呼正氣畢竟在誠字
嗚呼何必要多言
誠哉誠哉斃不已
七生人間報國恩

死生命有り論ずるに足らず

鞠躬唯応に至尊に酬ゆべし

奮躍難に赴いて死を辞せず

慷慨義に就く日本魂

一世の義烈赤穂の里

三代の忠勇楠氏の門

憂憤身を投ず薩摩の海

從容刑に就く小塚原

或は芳野廟前の壁と為り

遺烈千年鏃痕を見る

或は菅家筑紫の月と為り

詞は忠愛を存して冤を知らず

見る可し正氣の乾坤に満つるを

一氣磅礴萬古に存す

嗚呼正氣畢竟誠の字に在り

嗚呼何ぞ必ずしも多言を要せん

誠なる哉誠なる哉斃れて已まず

七度人間に生まれて国恩に報ぜん